

次に、「治療者の手の位置」の重要性について述べる。治療者が患者様に触れるときには、目的をもって触れているかどうかが大変である。特に、「動作学習を目的とした運動療法」では、患者様の身体を支えている手であるのか、誘導している手であるのかを明確に意識していなければならない。また、治療者の手の触れ方は、できるだけ柔らかくすることで、患者様の詳細な変化を感知することが可能になる。

最後に、「各治療の終了時期」について述べる。あるひとつの治療をおこなって、何らかの反応を得ることができれば、次に展開しなければならない。求めている反応が得られているのに長時間同じ治療を続けることは時間の無駄である。治療は、長時間おこなうのが良いのではなく、可能な限り早期に求めている反応が得られるようにし、良い反応が得られた時点で次のステップへの展開ができるようにすることが重要である。私は10分程度同じ治療をおこなって変化がでない場合は、治療者のテクニックが乏しいか、治療している問題点が間違っているかであると考えている。

以上のように、治療法選択のためには、能力障害、機能障害の問題点を明確にする必要がある。問題点へのアプローチには、特殊テクニックを使わなくても、関節可動域、筋力・筋緊張、感覚のコントロールと、これらを用いた動作学習ができれば良い。また、治療に関して、気をつけてほしいのは、適切な治療肢位、治療者の手の位置、ひとつの治療手技を終了する目安を明確にしておくことが大切である。これらの留意点を大切にすることで、我々が目指している「治せるセラピスト」になることができる。